

グループホーム ふくじゅそう

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	新たに、H20年4月にふくじゅそう基本理念・基本方針を作成し、「地域の方とのふれあいを大切にしながら住み慣れた街として生活ができるように支援」と唄っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	理念は、職員全体で考え、作成した。毎朝申し送り後に唱和している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		今後も理念が理解されるように取り組んでいきたい。
	ホーム内に常に掲示している。運営推進会議の際に、家族や地域の方に伝えている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		さらに付き合いが広がるように努めていきたい。
	近所の方と会ったら、必ず挨拶をしている。近所の方から野菜などを頂くことがあり、ホームもお返ししている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	4つの自治区と交流を図り、行事へ参加・出演・模擬店出店等を行っている。地域の夏祭り・敬老会・文化祭等に毎年参加し、地元の方との交流に努めている。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域行事その他の交流の際に、地域の高齢者が困っていること、悩んでいることがあればいつでも相談にのることを伝えられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、市の実施指導での助言は理解し、改善している。前回外部評価で指導を受けた基本理念の再検討は、H20年4月に実施済み。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定例で開催している。その度、会議内容は考案しており、地域や家族の方にグループホームについて深く関心・理解して頂けるように努めている。		さらにグループホームの理解を深め、活発な意見交換ができればいいように努めたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事あるごとに、市担当者に連絡したり、包括支援センターに訪問し、空き情報や相談・指導を受けたりして連携をとっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の訪問調査員からの資料提供、連絡経路等の助言を頂いた。対象となる利用者の関係者とは相談中で、今後も必要時相談を受けるようにしている。		今後も必要な時には、制度を利用できるように支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等で話し合う機会がある。言葉使いでも拘束等につながっていないか、その度に職員で意見交換を行っている。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ前に2～3度、面接の場を持ち、家族の意見等も聴きながら説明を行っている。(退去時も同様)</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見等を言いやすい環境をできるだけつくり、日々傾聴している。家族面会の際に、本人の様子を尋ね、気持ちが表せるように努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回、定例でお便りを発信している。金銭管理については、1ヶ月に1回程度、他報告はその度に面会時や電話で報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>館内に意見箱を設けている。又、家族等の面会時に必ず声かけするようにしている。時々、家族からの苦情や要望を聞くことがある。</p>		<p>さらに、どなたでも気軽に相談できる関係を築いていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>主に、月2回の定例会議で意見・提案を聴いている。</p>		<p>運営に関して、職員がもっと意見を持つことができるように、日頃から意識づけていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況に応じて、すぐに対応ができるように努めて、職員の協力を得ている。行事等の場合、職員確保できるように勤務調整を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>H20年4月に、ふくじゅそう内での異動を1名実施した。初めは利用者・職員共に戸惑いはあった様子だったが、現在は異動した職員が両館の利用者共に交流がとれている。</p>		<p>やむを得ず、職員が退職する場合もあるので、ダメージが最小限になるように前もってお伝えしている。又、必要時は職員間異動も取り入れていく予定である。</p>

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性格や年齢を不問としている。面接の際にはグループホームが求める素質を一番に置いている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権教育、啓発活動を年に1回程度実施している。</p>		<p>日頃から職員が意識をもつように取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会への参加、社外研修等について職員に呼びかけ、参加している。今年度、介護福祉士に3名合格した。</p>		<p>今後も、全職員が社外研修に参加できるように働きかけていきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>開設時よりグループホーム協議会に入会して研修会の参加や意見交換の交流を持ち、お互いの質向上に取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常や面談時には、悩み等を聴くように努めている。又親睦会も参加している。</p>		<p>年に一回個人面談を行い、集団の中では言えない悩みや意見等を発言する場を設け、職場環境、処遇の改善を常に図る。</p>

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今年度、介護福祉士3名合格した。職員は各自で向上心を持って職務に就いている。運営者にも理解してもらえるように日頃から伝えている。		運営者には、業務についての理解、又職員がさらに向上心を持って働けるように努めて頂きたいと思う。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には、必ず本人と面談し、聴取するようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居後は、共に利用者本人の生活を支えていく立場となるので、二度三度と話をし、お互いの理解を深めようとしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、家族・居宅介護ケアマネジャーと相談し、本人にとってより良い選択ができるようにしている。本人と面談した際、ふくじゅそう入居が最も適切かどうかとも考慮に入れている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の日時は基本的に利用者・家族の意見を取り入れている。利用者本人が納得した上で入居されるばかりではないが、事前に必要な情報を収集することで、できるだけ入居時に混乱しないように努めている。		本人が安心して、納得した上でサービス提供できるように、利用者本人への働きかけについて今後検討していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者として尊敬の心をもって接するように、基本方針に取り入れたり、社内研修会議やケアプラン作成の際に話し、確認している。		今後も職員間で、確認し合いながら取り組んでいく。

グループホーム ふくじゅそう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ず声かけ、利用者の状況を説明し、傾聴する姿勢をとっている。家族の事情で面会に来ることができない方には、手紙や電話で連絡をとるようにしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族が主体と考えている。面会の際には家族で過ごされるように見守っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際には、利用者と交流できる場を作り、立ち寄りやすい環境づくりに努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1人1人の変化を把握し、訴えがなくても職員が感じ取るように努めている。また職員の考えが先走りするのではなく、本人の意思を尊重しながら、利用者同士が良い関わりができるように気をつけている。利用者間のトラブルの際には職員が間に入り、関係調整に努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、相談があればいつでも受けるという意向は伝えている。日頃からコミュニケーションを図り、相談しやすい環境をつくるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案、アセスメントには社内会議で討議し、より本人本位であることを目指している。利用者の思いが反映されるように、常に問題意識を持って接している。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にある程度、情報収集し、入居後の介護に活かせるようにしている。入居後も利用者の発言等から、その方の事を知り、サービスに活かせるようにしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人との会話、動き、家族との会話等から把握するように努めている。特に入浴や散歩時、1対1で会話している時にふっと思わぬ言葉が聴かれることがあり、見逃さないようにしている。		小さな事でも細めに記録に残したり、申し送る事で、職員一人一人が現状を把握できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案の際に本人との会話・動きの観察又は家族からの生活の意向を聴き、プランに反映できるように話している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをしている。体調等で変化が生じた場合は、緊急にプラン変更をしている。利用者個別の計画期間を考慮している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は経過記録に記している。又利用者のケアに関して気付いたことをノートに記入し(気づきノート)他職員に意見を求め解決に向けている。社内会議・ケアプラン会議にて情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの催し物への参加で、楽しみの幅を広げている。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の社会福祉協議会長のもと、民生委員との交流の機会を設けている。ボランティアに関しては、行事等の参加以外にも来所する機会がある。H20年6月、避難訓練の際に消防からの助言を頂いた。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設した居宅支援ケアマネジャーと連携をとったり、必要時には他サービスと連絡をとったりし、スムーズにサービスが受けられるように支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、必要に応じて情報交換や相談をし、協力関係を築いている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、利用者・家族の意向を取り入れている。グループホーム協力病院以外で、直接ホーム側が会う機会が少ない場合は、必要に応じて書面で利用者の状況を記して、情報を提供するようにしている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医や精神科医に日頃の診察時に相談している。		家族とも相談し、より専門的な診断や治療が受けられるように考慮することも必要と思われる。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師がケアマネジャーで常勤しており、主に医療活用の支援を行っている。また協力病院の看護師にも日頃から相談をし、適切な医療が受けられるように支援している。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>必要に応じて、入院時に情報提供書を作成し、本人の様子が分かるようにしている。入院中に面会に行き状態を把握し、退院時も必要時に病院職員から情報を収集するようにしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>機会を見て、入居者本人・家族の意向を確認している。方針やかかりつけ医と話し合いができている場合は、職員全体的なこととして共有できるようにしている。</p>		<p>さらに早期から、重度化した場合、終末期のあり方について話し合いが持てるようにしたいと考える。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人及び家族の意向を聴き、主に医師の指導のもと、ホームではできるだけ家庭生活が継続できるように支援している。本人の状態に応じ、医療機関と連携がとれるように準備し、適切な処置が受けられるようにしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人が住み替えする時は何らかのダメージが生じることが予測されるので、家族やケア関係者とは情報を共有して、スムーズに住み替えができるように努めている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人ファイルの記録に、その方の成育暦や生活環境・家族状況が詳しく整理されている。その人その人にあった言葉かけや対応を行っている。</p>		<p>毎日の介護で馴れ合いにならぬように、今後もきをつけていきたい。</p>

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人、その人に合わせた説明、声かけを行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはある程度決まっているが、体調・天候・希望に添い、その日の利用者に合わせ、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容利用、カラー希望する方にも応じている。数名は行きつけの美容室、理髪店へ行かれている。整容は自分で行ける方にはして頂いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備・片付けが得意な方は、好意的にできるよう働きかけている。又、職員も一緒に食事し、音楽を流したり、会話したりしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒が好きな方には入浴後に、又週1回夕食時希望者に提供している。おやつや飲み物等、好みや冷たいか温かいが等聴き、提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導が必要な方は、把握できるように記録し、気持ちよく排泄できるように努めている。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回の入浴を支援している。利用者の体調や意思を確認しながら、入浴支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者のその日の状況に応じて休息をとって頂くようにしている。夜間は眠剤を使用されている方もいるが、減量できるように主治医を相談を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、楽しみごと、役割分担をしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は財布を所有して頂いている。又、買い物の際、本人の買い物については自分で支払われる方もいる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食・外出等、行事を立てている。当日、希望があれば可能な限り、希望に添った支援をしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	彼岸の墓参り、外食、ショッピング等の外出支援を行っている。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で書かれる方は、年賀状等書いて頂いている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方が来られると職員は挨拶している。利用者のグループホームでの様子をお話している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	歩行障害がある方で立ち上がりが見られる時は、傍でお話したり、唄って気を紛らせたりし、あるいは気分転換に散歩したりと拘束しないように気をつけている。		今後も日頃の介護で拘束につながっていないか、その度職員間で確認し合うようにする。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強い利用者に対しては、時間帯によっては玄関に鍵をかけることもある。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされる利用者に対しては、さりげなく所在や様子を確認している。適宜、及び夜間帯は、必ず所在を確認するようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ等使われる利用者に対しては、使った後確認している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒のリスクの高い利用者に対して、日中は見守り・声かけを行い、夜間はベッド下にセンサー等を置いて見守りを行う。各事故防止についてマニュアルを作成し、周知するようにしている。		今後も事故が起こらないように職員の意識を高め、また実際に起こった場合に迅速に対応ができるようにしていきたい。

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署指導のもと、救急救命実習を受けている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回程、夜間火災が起きた時を想定して、避難訓練を実施している。		地域の方との交流時においてお願いするようにしている。今後通報設備を有効に活用し、より早く協力体制が整えられるようにしていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	必要時、又はケアプラン見直しの際等に、家族へ説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、検温を行っている。体調に変化がある時は、他職員や管理者へ報告し、早期に対応できるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用については、個人別にファイルし、いつでも確認ができるように整えている。確実に服薬したかのチェック表を記入している。		今後も確実に服薬援助ができるように、日々意識を持って取り組んでいく。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の時、ヨーグルトや果物等提供したり、水分補給に努めている。毎日体操やストレッチをし、身体を動かして頂いている。		食材等で便秘解消ができるようにさらに工夫していきたい。

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人に合わせた支援として、歯磨きの声かけ・磨き残しがないか確認・義歯をブラシで洗う・うがいの一部介助・口腔内の残渣物をブラシで除去し洗い流すといった介助を行っている。必要時歯科の助言を頂いている。		体重の増減等により、義歯装着時の不具合の観察を行い、早期に歯科受診にて対応していく。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は年齢や体格に合わせ、個人で調整を図っている。必要時に食事・水分量を記録し、状態を把握できるようにしている。バランスよく食べて頂くように、器の配置や食べやすい大きさに刻んだり工夫している。(調理師が献立作りをしている)		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成している。日頃は、外出後や食事前の手洗い・手指の消毒・うがいの励行・必要時に手袋を使用する・布団乾燥機の使用や天日干し・入浴後の足拭きマットの個人持ちなど行っている。家族にも面会時に手洗い・うがいを励行して頂き、協力を得ている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	具体的には、調理器具の熱湯消毒・除菌洗浄、食材に対しては適切な温度・期間で管理し、冷蔵庫は週1回清掃及び点検を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口近くに水槽や花を飾り、家庭的な雰囲気作りの工夫をしている。玄関先には花壇を作り、花等を植え育てている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井と拾い空間を持ち、壁には利用者と共に作った作品や写真が貼られており、季節感がある温かい雰囲気作りに努めている。又、月ごとの行事や日めくりカレンダーを見えやすい場所に掲示し、季節感が分かるようにしている。		

グループホーム ふくじゅそう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等では、気の合った利用者同士で会話ができるように配慮している。食堂で新聞を読んだり、ベランダで散歩して過ごしたりできるように配慮し見守りを行っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を設置し、家族の写真を飾ったり、置物や花等、好みのスペースを確保している。本人や家族と相談の上、個人の寝具を使用している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節や気温・湿度に合わせ、居室内や大きく開放できる天窓等を開ける配慮をしている。温湿度計をフロア内に設置し、室温・湿度調節を行っている。トイレ内では、消臭剤・芳香剤使用、必要時換気扇使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内に手すりを使用。夜間は居室内移動時に手元・足元が見える明るさの照明となるよう配慮している。床は滑りにくい材質でバリアフリーとなっている。一緒に暮らしながらよりよく安全に生活が出来るように少しずつ改善している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家事は分担し、できることを見守り、一部介助にて行っている。買い物等食材選びや、支払いの見守りを行っている。		今後も身体機能や状態に応じて、できることを見つけていきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関外に花壇を設置し、一緒に觀賞したり、花を摘んだりしている。ベランダでは、日光浴や散歩、食事やおやつを食べたり、バーベキュー等で楽しみ作りをしている。		

グループホーム ふくじゅそう

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ふくじゅそう

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホーム内は天井が高く自然の光が多く入り、開放感がある、木造の造りで木の温もりを感じられる。
 中庭やテラスを利用して、外での昼食やバーベキュー、夏祭り等を行っている。
 近隣にある緑地公園に散歩に行くことで、季節の様子が感じられている。
 食事は調理師が手作りをして、手伝いができる利用者には野菜を切ったり、配膳の準備をしたりして頂いている。
 月1回、両館の合同研修会議を行い、情報・意見交換をしている。
 家族には、「ふくじゅそう便り」を発行して日頃の様子を報告している。